

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成27年5月発行 No.44号



クチナシ

「木道利用に係るガイド講習会」を開催

3月12日(木)に沖縄森林管理署と当センターの主催で、森林環境教育の拠点施設として、平成20年度に仲間川の支流の北舟付川(ニシフナツキカワ)に隣接



ガイド講習会

するマングローブ林及びサガリバナ林内に整備されている木道(延長150m)等の利用を希望する者を対象に「木道利用に係るガイド講習会」を開催し、41名の方々が受講されました。

今回の講習会では、初めての人と2回目以降の人を区分して講習会を行うこととしました。つまり、初めて講習を受講される人に対しては仲間川の自然や法的規制などに関する様々な基本的情報を提供して、当該

地域に対する理解を深めてもらうようにしました。その後、講習が2回目以降の人と一緒に西表島を巡る様々な状況や木道の利用に当たっての基本的な注意事項などを伝えました。

今後、講習を受講した人たちが、設置されている木道を有効に利用して、訪問者に対して西表島の豊かな自然への理解を深められるようになることを期待しています。

仲間川及び仲良川流域におけるマングローブ林倒伏被害調査を実施

3月9日(月)に仲良川流域において発生しているマングローブ林倒伏被害地の調査を実施しました。

調査の結果、西表国有林155い林小班において0.70haの倒伏被害地を確認しました。倒伏した種はオヒルギで支流に沿って軟弱地盤な箇所が発生していました。

これで倒伏箇所の調査は、既に調査を終えた仲間川支流の2箇所(民有地3.53ha、国有林1.85ha)を含め3箇所となりすべての被害地の調査が終了し概要が明らかとなりました。



クチナシ (アカネ科 *Gardenia jasminoides*)

本州の静岡県以西から南西諸島の低地から山地の林縁に生育し、高さ1-2mの常緑の低木で、全体に毛はありません。葉は長さ5-12cm、幅2.5-5cmです。花は香りのある白色で、花びらの径は5-6cmで6つに裂けて咲きます。実は夜果で楕円形長さ2.5-3cm、幅1.8-2cm、橙黄色に熟します。庭木として栽培されて、中には花の径が6-7cmのものもあります。果実が熟しても割れないため、「口無し」という和名の由来となっている説もあります。



仲間川の被害地

この倒伏被害の原因は、八重山地方を襲った観測史上1・2位の最大風速65~70mを記録した平成18年9月の台風13号及び平成19年9月の台風12号によるものです。このことは、経時の空中写真においても確認されます。

今後は、生じたギャップがどのように再生していくかを継続的に調査し、関係機や有識者への情報共有などを図りながら更新の進捗を確認していくこととしています。

ヒナイ川・西田川の利用状況調査 (2・3月分) 報告

2月期の利用状況調査をヒナイ川は2月9日(月)、西田川は2月10日(火)に実施しました。結果、ヒナイ川はカヌーツアーが6組、利用者が18名(ガイド含む)、西田川は徒歩での利用客が1組、利用者は2名でした。

ヒナイ川の調査日はこの冬一番の冷え込みで利用客がいるのか心配でしたが、半数の組が滝の上まで行く客でした。一方西田川は、地元の宿泊施設に勤務している人と、西表島には観光で数回来ている人でした。



那覇からの利用者

また、3月期のヒナイ川流域における利用状況調査を3月10日(火)に実施しました。結果、カヌーツアー9組で利用者は31名(ガイド含む)でした。

ピナイサーラの滝の水量も以前のように回復していました。ヒナイ川の26年度1年間のカヌーツアーの利用実績は27業者151組673名(ガイド含む)の利用がありました。

外来種ソウシジュ(白浜地区) モニタリング調査を実施

平成26年度の外来種ソウシジュ(白浜地区)のモニタリング調査を、平成27年1月20日に実施しました。この調査は、外来種であるソウシジュが、西表島西部の白浜を起点とする旧白浜林道の奥深い内陸地に侵入していますが、その生育状況がどのようになっているか、毎年度モニタリングしているものです。

ソウシジュの生育状況は昨年の調査と比較して状況は変わりませんでした。

また、調査プロットの4区域内においては榊樹の発生は確認できなかったことから、全体として衰退の方向に向かっていると思われます。

しかしながら、4箇所の調査地区以外の森林が空けた場所では、ソウシジュの幼木が数カ所で確認されました。今後とも推移を見守ることが必要であることを再認識しました。



調査風景

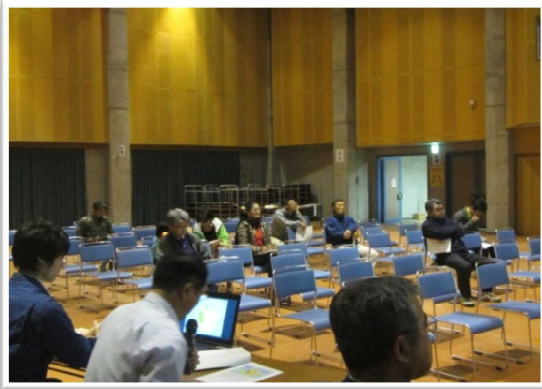


「浦内川及び仲良川流域におけるマングローブ林立ち枯れ調査」の 地元説明会を実施

1月15日（木）に、西表島の中野わいわいホールにおいて、「浦内川及び仲良川流域におけるマングローブ林立ち枯れ調査」の地元説明会を実施しました。

この調査は、平成21年に浦内川及び仲良川流域の5箇所を確認したオヒルギの立ち枯れについて、平成22年度から25年度まで生育状況等の調査を行ったものです。

説明会では、4年間の調査内容と立ち枯れ原因について説明を行うとともに、関連して仲間川の台風被害地の状況についても報告しました。



地元説明会

今後も、当センターが行っている各種調査について取りまとめを行い、地元説明等を行っていきたい。

3月31日付 退職 お世話になりました。

所長 井田 篤雄 (いだ あつお)

お世話になりました。林野庁勤務の最後の2年間を当センターで過ごし、自分で培ってきた国際協力業務との接点が日本にも存在することが分かりました。一方、国有林野事業も一般会計となり、さらなる変革を求められることになると思います。成熟期を迎えている森林を生かすためにも今後の取組が重要になってきますので、今後の皆さんの一層の活躍を祈念して、退職の挨拶とします。

4月1日付 転入 よろしくお祈りします。

所長 井上 誠 (いのうえ まこと)

前任地：宮崎北部森林管理署長

沖縄県内での勤務は初めてで、保全センターの業務（生態系）関係も初めてです。西表の亜熱帯の照葉樹林は、私にとって経験したことない森林生態系であり、また、希少種の宝庫でもあります。初心に戻って、この西表の豊かな自然環境の保護に邁進して行きたいと思っています。地元の皆様や関係行政機関等との連携を図りながら、様々な保全活動に積極的に取り組んで行きたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

西表島に生育する外来種 ②

アメリカハマグルマ

(キク科 *Sphagneticola trilobata*)



日本では1970年代から沖縄の各地に緑化植物として導入され、野生化している。世界的にはマングローブや海岸植生といった希少な自然環境に侵入し、在来種や生態系を脅かしており、侵略的な外来種となっている。また、農耕地では雑草として嫌われている。

こうした悪影響から、国際自然保護連合（IUCN）では本種を世界の侵略的外来種ワースト100のひとつに選定している。日本でも外来生物法により要注意外来生物に指定している。

刈り取った断片から発根して拡大するため、抜き取りによる防除が必要となる。

外来種とは？

明治以降に日本に移入導入された生物を外来種といい、分布域や生息・生育区域を拡大して生態系に重大な影響を与えることがあります。

国際自然保護連合（IUCN）とは？

1948年に創設された、国際的な自然保護団体である。国家、政府機関、NGOなどを会員とする。本部はスイスのグラウブündenにある。日本は1978年に環境庁が日本の政府機関として初めて加盟、1995年に国家会員として加盟した。

世界の侵略的外来種ワースト100とは？

国際自然保護連合（IUCN）の種の保全委員会が定めた、本来の生育・生息地以外に侵入した外来種の中で、特に生態系や人間活動への影響が大きい生物のリストである。

西表島の似たものの植物

アオノクマタケラン

V s. イリオモテクマタケラン



| | |
|-------|------------------------------|
| 区 分 | 草本類 |
| 分 布 | 本州（紀伊半島、伊豆諸島）、四国、九州、沖縄、中国、台湾 |
| 葉 の 形 | 狭長楕円形 |
| 葉 の 縁 | 全縁 |
| 葉 の 先 | 鋭形 |

| | |
|-------|------------------|
| 区 分 | 草本類 |
| 分 布 | 石垣島、西表島、台湾、フィリピン |
| 葉 の 形 | 狭長楕円形 |
| 葉 の 縁 | 全縁 |
| 葉 の 先 | 鋭形 |

| | |
|---------|---------|
| 葉 の 種 類 | |
| 葉 の 付 方 | |
| 葉 の 基 部 | くさび形 |
| 実 の 種 類 | 蒴果 |
| 花 ・ 萼 色 | 白色で淡い紅色 |

| | |
|---------|------|
| 葉 の 種 類 | |
| 葉 の 付 方 | |
| 葉 の 基 部 | くさび形 |
| 実 の 種 類 | 蒴果 |
| 花 ・ 萼 色 | 黄白色 |

説 明
山林内に生育し、高さ 1-2m の常緑の多年生の草本です。葉の表面には光沢があり、長さ 30-50 cm です。花は総状花序で白色、上を向いています。実は球形で径 1 cm 程度です。本種は葉の縁に毛がないこと、花のつき方が違うことから、クマタケランと区別することができます。

説 明
山林内に生育し、高さ 1-3m、常緑の多年生の草本です。葉は長さは 30-40 cm です。花は円錐花序の黄色を帯びた白色です。アオノクマタケランと比べ、花茎が枝状となり、花の付き方が違います。実は球形で径 5-6 mm 程度、熟すと橙黄色になります。

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

